

営 農 情 報

令和5年6月1日発行

第14号

秋まき小麦の出穂が始まっています！

赤かび病は開花時期に最も感染しやすく、多湿条件で多発します。出穂揃からの予防防除が重要です。1回目の適期はほとんどの穂が穂首まで出た開花極始期ですが、開花始に雨天の恐れがある場合は、出穂揃から防除しましょう。出穂にバラつきが目立つ場合は、圃場内の生育が早い部分に合わせて1回目の防除（出穂揃）を実施し、2回目以降の薬剤散布でほぼ全ての穂が薬液で保護されるよう計画的な防除を実施しましょう。



出穂期
少し早い



開花極始期
初回防除適期！



開花期
遅すぎる

○秋まき小麦赤かび病防除体系

回数	薬剤名	使用倍率	使用時期
1回目 (選択)	リベロ水和剤	2,000倍	開花極始
	シルバキュアフロアブル	2,000倍	
2回目	トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	1回目から5～7日後
3回目	シルバキュアフロアブル	2,000倍	2回目から5～7日後
	ベフラン液剤25※	1,000～2,000倍	
3回目以降	チルト乳剤25※	1,000～2,000倍	臨機

※リベロ水和剤・シルバキュアフロアブル・チルト乳剤25は同系剤ですので連用は避けましょう。

※葉枯症の発生が懸念される場合（開花期の降水量が多い、過半茂、連作で昨年多発）には、開花始（1回目防除）にバラライカ水和剤（DMI・フルミド混合剤）を使用する。（使用倍率500倍）

次ページへ⇒

春まき小麦を倒さず獲りましょう！

本年の春まき小麦は、播種時期が大幅にバラついたため、圃場によっての生育差が大きい状況ですが、生育に合わせて、倒伏軽減剤（植物成長調整剤）を散布しましょう。

○倒伏軽減剤（植物成長調整剤）について

薬 剤 名	使用回数	使用時期	反 当 使用量	散布水量	備 考
サイコセルPRO (茎桿伸長抑制)	1回	6葉期前後 草丈30～40cm	150ml	100L/10a	・ 散布時期が遅れると効果が劣る。 ・ 高温時の散布で薬害の恐れがある為、夕方に散布する。
カルタイムフロアブル (茎桿伸長抑制)	1回	止葉期～出穂始期	150ml	100L/10a	
エスレル10 (節間伸長抑制)	1回	止葉期	75～125倍	25L/10a	・ 30%以上出穂すると効果が劣る。
		止葉期～出穂始期	125倍		
		出穂始期	300～500倍	100L/10a	
			300～1,000倍	100L/10a	
		125～250倍	25L/10a		

※使用量・使用時期を厳守し、多量散布や重複散布にならないように注意しましょう。

春まき小麦圃場で「うどんこ病」が発生しています

春まき小麦圃場の一部で「うどんこ病」の発生が確認されております。多湿条件で発生しやすくなりますので、罹病が確認されましたら、速やかに防除を行いましょう。

○「うどんこ病」に有効な薬剤

薬 剤 名	使用回数	使 用 倍 率	散布液量
ミリオネアフロアブル	2回以内	4,000倍	60～150L/10a
アミスター20フロアブル	3回以内	2,000～3,000倍	100～200L/10a

J A み ね の ぶ 営 農 推 進 協 議 会

TEL 0126-67-2334 FAX 0126-67-2803